

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>法人の運営理念を基本にし、BS法にて利用者の気持ちを基に、職員と共に考えた自主的な理念を掲げ取り組んでいる。</p>	○	今後も地域密着型サービスの役割を理解し、地域や利用者のニーズに合った理念を考えていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>朝礼時に、職員が理念を復唱すると共に、理念を事業日誌にも記載して、全職員が共有できるよう取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>ご家族には、入居時や行事等での機会に、また、地域の人達には、運営推進会議やケアケア交流講座等を通じて説明しているが十分とはいえない。</p>	○	今後は、地域の催し物等にも積極的に出かけ、理念の浸透が図れるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>地域とのふれあい祭り、ボランティアによるフラダンス発表会、園芸作業等を通して地域との交流を図っている。また、日常的に散歩や買物などに出かけ、親しくなった方の畑から玉葱、じゃが芋、大根等を取らせていただいている。また、他の事業所の人達と陶芸教室にも参加し、交流を深めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会にも属し、地区社協の理事、社協の評価議員、市の計画策定委員をしている。また、地域と各行事への連携をとり、地元の人々との交流が密になるよう心がけている。</p>	○	近所の方々が気軽に立ち寄れるホームとなるよう、より一層努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ケアケア交流講座、善通寺市健康のつどいフェアなどにも進んで参加し、ケアのノウハウや悩み事などを話し合ったり、相談にのるなど、地域住民の方々との交流に努めている。	○	今後、ホーム内だけでなく、地域の高齢者の暮らしに役立てることができるよう取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員が、自己、外部評価の意義について理解し、自発的に取り組んでいる。	○	管理者、職員が自己、外部評価の意義や活かし方を理解して、活用しながら、具体的改善策を考え、利用者が安心してその人らしい生活できるよう、一丸となり取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果などを報告し、説明しているが、始まったばかりで十分とはいえない。	○	今後は、運営推進会議などを通じて、より地域に密着した、利用者のニーズに合ったサービスが提供できるホーム作りをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市の部長や地域包括支援センター室長にも参加していただいている。	○	認知症ケア研修等を受託しているが、市担当者にグループホームの理解を深めるような働きかけは特別にしていないので、検討したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についてはフロアに掲示し、本人、ご家族などの関係者が閲覧できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会において、高齢者虐待防止対策について検討する機会を設けている。また、職員のストレスを溜め込まないよう、職員の困りごとの相談は、管理者自らが時間を設け、話し合う場を持つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族等が不安や疑問等について話せるよう配慮し、具体的なホームの説明を行い、納得を得た上で手続きをしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から選出されたメンバーが運営推進会議に参加し、意見や思いを伝える機会を設けている。また、外部の熟練した相談員が月に1回程度、利用者の表情や意見を見聞きするために訪問し、その様子、結果について報告を受け、検討する機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に1回程度、定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態等について、写真を添えて報告している。また、来訪時にも近況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の提示や苦情箱を設置しているが、投函はない。面会時には、必ずコミュニケーションができる機会を設け、意見等の言いやすい環境作りに努めている。	○	意見等が気軽に伝えられるような機会や場があることを、十分に説明していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、職員相談カードで管理者まで提出してもらい、主任会議、業務改善委員会等で検討の上、運営、業務に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や職員との馴染みの関係を大切に、勤務割を調整し作成している。朝、昼、夕食の準備に人手がいる時は、多く配置するよう心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間での異動は行っていない。新規採用者には、現職員が当ホームに慣れ、利用者や顔馴染みの関係になれるように努め、均一したケアの継続ができるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場や経験、習熟度の段階に応じた学びの機会を設け、積極的に内外の研修に参加できるようにしている。(全国グループホーム協会主催の研修会、県主催の認知症ケア研修会など)		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会主催の相互評価研修、全国グループホーム協議会研修等の外部研修を通じて、同業者との情報交換や交流を行い、サービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	母体、協力施設との交流会、親睦会等の機会を保持し、各職種の人達と交流することでストレス解消ができるよう配慮している。また、職員のストレスが生まれないよう、いろいろな職員の困りごとの相談については、管理者が個別に相談の時間を設けて対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全職員に各々の能力に応じた県内外の研修会に積極的に参加させることで、意欲や向上心に繋げている。また、職員各自による相談カードでの意見や提案を取り上げ、働く意欲や向上心につながるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	気軽に訪問していただく機会を設け、その中で馴染みの関係や信頼関係を築き、話のできる環境作りに努めている。	○	訪問などを行うことで、初期段階での馴染みの関係作りに努力していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問の機会やコミュニケーションの場を設け、家族の思いをできるだけ受けとめるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を大切にし、気持ちよくサービスを利用していただけるよう努力している。他のサービス利用希望は、意向に添い、実施できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他利用者との馴染みの関係作りを大切にし、ご家族と相談しながら、徐々に環境に馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から、ばら寿司や糟漬け、洗濯物の干し方等を教えていただいたり、野菜作りでは、共に育て、収穫の喜びを味わっている。	○	今後も利用者一人ひとりの個性を大事にし、役割を持って生き生きと過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や近況報告では利用者の状況を伝え、笑顔の増えたことや尿失禁などの対応については、共に喜んだり、お知恵を拝借している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には、ゆっくりと話ができる場を作り、行事時には参加を呼びかけ、ふれあいの機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	勤めていた頃の同僚や近所の人の面会時には、自室でゆっくり話ができるようコーヒー等でおもてなしをしている。お気に入りの美容院に出かける人もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係の見守りを行い、時に介入し仲立ちをして、仲良く気持ちよく生活できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院入院時は、利用者と共に見舞いに行き、励ましている。また、ご家族には、いつでも相談や支援に応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケ</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昼食、夕食後のホットしたひと時に談話をしながら、また、散歩時などに出かけた時は、利用者が話しやすい環境作りの中で意向を聞ける対応をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時だけでなく、毎日の生活の中で馴染みの関係を築くことで、少しずつ把握し、その人その人に合ったプランを作成している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタルサインのチェック、日勤、当直、宿直者の申し送り等で、身体や精神状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成時は本人・ご家族の参加の基で作成し、意向を聞いている。また、参加できない職員は、書面で意見などを述記してもらい、ケアプランに反映させている。	○	利用者の尊厳と利用者本位の暮らしの継続ができるよう取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の評価と3か月に1回の見直しを行っている。定期的に近況報告し、家族と共に利用者の状態確認を行い、状態変化時は、ご家族との連絡を密にし、見直しを行っている。	○	その人らしさを大切に、その人の暮らしを支えていけるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や気づきノートには、利用者の言葉で、具体的に書いている。日々の申し送りでは、情報を共有、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症が増大する中、市と話し合いのもと、現在、小規模型居宅介護事業所建設に向けて進行中である。	○	多機能性を活かし、柔軟な対応ができるよう取り組んでいきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域とのふれあり祭り、フラダンスや餅つき大会に参加する等の支援をしている。	○	今後は地域の警察、消防、学校との連絡を深め、地域資源の活用に努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、ご家族の意向を聞き、希望に添うようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	電話等での連携はとっているが、十分とはいえない状況下である。	○	地域包括支援センターとの連携がうまく取れるように、努力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切に、それぞれの主治医に相談できる体制を確保していると共に、協力医療機関等での緊急等体制のも考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>かかりつけ医、地域の医療機関と連携し、診断、治療が受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>常勤の看護師がおり、日常的に健康管理や緊急時の対応ができています。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院時には、馴染みの職員や利用者が面会に行くなどし、安心して治療できるように配慮している。退院時は看護サマリーや関係者との連携と取り、支障なく過ごせるようにしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>元気なうちから、重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、書面にも記載していただいている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>重度化の場合には「できること、できないこと」を見極め、本人の希望を基に、家族、かかりつけ医、職員と話し合い、連携を図りながら支援していく。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>現状の介護要約やケアプラン、サマリーなどを手渡し、情報交換を行い、利用者の生活への支障がおこらないように配慮している。</p>	○	<p>今後、本人の住み替え時のダメージ防止を視野に入れた、よりよい情報のあり方について検討していきたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	バックグラウンドを見直していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	身だしなみ程度のお化粧することにより、生き生きとした表情が見受けられ、気持ちの良い一日のスタートができるよう、今後も継続したい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	一人ひとりの希望やできることに注目し、役割を持っていただいている。今後も継続していきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ対応はできるだけ避け、一人ひとりの排泄状態を把握し、さりげなく声かけ誘導することにより、トイレでの対応ができることを目指し、排泄支援に取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望により、日中や夜間入浴を実施している。また、希望により、温泉にも出かけられるよう対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、買物、散歩等に出かけ、疲れた時は藤の椅子や畳スペースで休めるように配慮している。また、生活習慣や体調等で午睡する人もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、春夏秋冬の季節行事の司会進行や意向に応じた役割、趣味などが生き生きとできるよう配慮している。(陶芸、折り紙、習字、歌など)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は自分で支払いをし、できるだけ金銭感覚が保持できるようにしている。	○	全利用者が金銭所持ができるよう家族の協力を仰ぎ、利用者が、在宅にいる時と変わらない生活に向けての支援を継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	観音参りやボランティアガーデン、また、田舎道への散歩やドライブを兼ねて、スーパーでの買物などを支援している。毎日1回は、必ず屋外に出向くことを目標に、利用者のストレス解消に向けて取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に墓参りや外食、兄弟会などに出かけている。また、四季の移り変わりが感じられるよう、丸亀、坂出方面へのドライブ等にも出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、職員が電話の取り次ぎ支援を行っている。また、家族、知人への暑中見舞いや年賀状等については、自発的に取り組めるよう支援している。手紙を書き、自由に投函できるよう支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、居室で湯茶サービスを出し、ゆっくりと家族や知人達と話ができるよう配慮している。また、居室以外の共用スペースでも、和やかに談話できるような雰囲気作りを心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で、禁止事項の確認を行ったり、ロールプレイを通して話し合う機会を持っており、全職員に周知できているため、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、常に鍵をかけない生活を目標とし、利用者が不穏にならない環境作りに努めている。職員は常に利用者に気配り、目配りし、自由に出入りできる密室化しないホームを目指している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の連絡を密にし、利用者の状況把握に努める。また、さりげなく利用者の動きや様子を見守れる位置を考え、業務につけるよう努力している。	○	さりげない位置での利用者の動きや、状況確認の徹底ができ難い状況下にある。利用者の次の行動に向けての察知力が養われるよう、全職員のケアの質を高めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	折り紙などに使うハサミは本人自身が所持しているが、包丁や洗剤などは、使用時は手渡し、使用後は手の届かない場所に保管し、安全を確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起りうると考えられる場合は、職員がニアミス報告書を記載し、事故防止対策委員会で検討し、再発防止に向けて努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の状態緊急時には、緊急時対応マニュアルに沿って、緊急連絡先に明示されている通りに状態説明、報告している。定期的に、緊急時は対応研修をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練を行っているが、十分とはいえない。	○	運営推進会議を通じ、地域の人々に協力を得られるような体制作りをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、誤嚥などの危険性のある利用者に対しては、事故防止委員会やカンファレンス等で話し合い、予防に努めている。また、家族には、考えられるリスクや対応策について十分に説明し、了解を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後、バイタルサインのチェックを行っている。また、日頃より、行動や表情の観察を行い、異常時には主治医に連絡、相談し、指示を仰いでいる。	○	利用者の応急処置等の研修を増やし、利用者の安心、安全な生活に向けての質を高めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと、与薬管理表でチェックを行い、服薬管理をしている。また、薬情報により、副作用、用法、用量について確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より、繊維の多い食事や水分補給に努め、おやつには芋類を使ったメニュー等を工夫している。一人ひとりの排便の状態を把握しながら、センナ茶飲用、散歩への誘い、リズム体操などの対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、歯磨きの時間が習慣となるように「歯磨き体操」等を取り入れ、各自、愛用のハブラシで清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を確認し、利用者の栄養バランスを考えると共に、摂取状況に努めている。水分の大切さは全職員が周知しており、散歩や入浴後は、特に多めに摂取していただいている。管理栄養士が常にいるので、職員に研修を行っている。(1日1500kcal,水分1500cc目安)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策についてのマニュアルを作成し、職員に周知している。特に、ノロウイルス、インフルエンザ流行時には、訪問者の手洗い、うがいには協力をお願いしている。感染予防対策委員会を組織し、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板の洗浄、消毒は、マニュアルに沿って行い、食材は、新鮮で安全な物を使用し、衛生管理の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、プランターに草木、野菜の苗を植え、ロープを設けている。玄関前にはベンチを置き、地域の人達と気軽に話せるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者の心の拠り所として、仏壇を置いている。談話コーナーには、地域の人達からいただいたソファを用い、家庭的な雰囲気心を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の要所要所に椅子を置き、外の景色を見ながら一人でくつろげる空間や、気の合った人達と過ごせるソファを置くなど、ゆったりできる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、愛着のある物をホームでも使っていただけるよう、家族に説明し、協力していただいているため、利用者各々が落ち着ける居室となっている。本人の好みで、手作りの作品や、思い出の写真を飾っている利用者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分では、午前10時、午後3時頃の最低2回は、必ず換気を行うようにしている。居室の窓は、天気の良い日には空けておく。排泄介助を居室で行う場合は、必ずカーテンを閉め、換気扇を回す等の配慮を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、一人ひとりの状況に合わせたひじ付き椅子、ベッドの種類等に配慮し、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札を用意している。トイレは、その方の使い慣れた名前(トイレ、便所、御不浄等)表記し、その都度、対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭(ボランティアガーデン)と民家を活用し、利用者の憩いの場として利用している。また、駐車場には、畑も作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(環境作り) 畑、庭、民家等を活用し、利用者が在宅と同じ空間を感じるよう配慮している。隣接地には医院があり、緊急時の対応等で利用者の安全が守られている。

(ケアプラン) 本人、家族参加のもと、職員全員で取り組んでいる。いつも利用者、職員、家族等の笑い声が聞こえ、お互いが支え合うホームを目指して取り組んでいる。